

第2回佐賀市総合計画審議会 議事録

◆ 日時

令和6年8月8日（木）10:00～12:00

◆ 会場

ホテルグランデはがくれ フラワーホールAB

◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は会長、○は副会長

荒木健、有田武史、池田敦子、今村正治、内川実佐子、梅崎義高、大江登美子、大島清美、岡山香織、小城原直、かくもとしほ、上赤博文、北原奈津紀、木村恭子、近藤慎也、坂井克宏、庄野雄輔、杉山利則、○田口香津子、高田理世、谷口仁史、筒井洋平、鳥井智子、内藤正隆、野田直子、野中明、林正博、福成有美、古園裕久、細川亮、溝上良雄、宮崎悟、宮崎陽治、◎山下宗利、山田健一郎、吉村純子、渡島隆章

◆ 欠席委員（敬称略、五十音順）

伊藤喬、猪八重拓郎、牛島英人、内山真由美、平野正人、宮城亮、村井慶史、吉原正博

◆ 事務局

武富政策推進部長、坂井総務部長、古賀経済部長、川副農林水産部長、江頭建設部長、宮崎環境部長、片渕市民生活部長、森保健福祉部長、大久保子育て支援部長、筒井地域振興部長、大松教育部長、豊田都市戦略部副部長、志波政策推進部副部長、白濱企画政策課長、藤本行政マネジメント課長 外

◆ 傍聴者

2名（報道関係者を含む。）

◆ 議事要旨

1 開会

○司会

ご多忙の中、参集いただき御礼申し上げます。ただいまから、第2回佐賀市総合計画審議会を開催する。

本日は委員45名のうち、33名に会場に出席いただいている。また4名がオンラインで参加である。以降の進行は会長にお願いする。

○会長

これまで各分科会で活発な議論をいただいたこと、御礼申し上げます。
全体会としては本日が二回目の総合計画審議会となる。これまで各分科会で審議いただいた結果をとりまとめ、本日は答申案を審議する。
それではまず各分科会からの報告を行い、その後に全体審議とする。

2 議事

(1) 総合地域分科会

《説明》

○総合計画審議会 答申（案）の概要に関する説明 資料 1・2

(2) こども・教育・福祉分科会

《説明》

○総合計画審議会 答申（案）の概要に関する説明 資料 1・2

(3) 経済・産業分科会

《説明》

○総合計画審議会 答申（案）の概要に関する説明 資料 1・2

(4) くらし・環境分科会

《説明》

○総合計画審議会 答申（案）の概要に関する説明 資料 1・2

3 審議

○委員

あくまでも私見として述べるが、私は、人口減少問題には鉄道の発展が関わっていると考える。その上で、計画には鉄道に関する記載がないと感じている。

人口が減っている県庁所在地を調べると、共通して駅の利用者が少ない。このことは、県都と地域経済、駅周辺などのまちづくりができていない、機能していないことを表しており、佐賀駅については、福岡や長崎に比べるとそういった機能が低いと思う。

具体的には、現在の佐賀駅になって、駅周辺において車が通りにくいなど、まちづくりとして重要である交通が不便となり、現在の佐賀駅が交通を妨げている印象がある。解決するには佐賀駅の高機能化などが必要と考えており、西九州新幹線の停車駅に係る問題も含め、佐賀駅について調査を客観的に実施する必要性を感じている。

○委員

防災安全に関して意見する。資料2のP49には自然災害などの記載はあるが、佐賀空

港に自衛隊の駐屯地が整備されることもあり、安全保障に関わる戦争や原発のことについて記載すべきでないかと考えている。自衛隊隊員の家族などの受け入れに係る記載も必要だと考える。駐屯地整備に反対されている市民がいる中で、受け入れとなる地域からの不安の声もあったと聞いている。

○事務局

資料2のP50に、国民保護計画を関連計画として記載・整理していることから、各論として、個別計画での対応としたい。

○委員

資料2のP49に安全保障に係る記載がなければ、P50でもその内容を解釈するには至らないと考える。戦争など有事は可能性ゼロとは言い切れないことから、小学生でも分かるように記載することを希望する。

○委員

「佐賀らしさ」について、考えてみると実は「佐賀らしさ」というものはないのではないかと思った。過去に「さがを探そう」といったキャッチフレーズが流行ったが、「探求の佐賀」のようなものも面白いと感じた。小学生でも分かるといった部分においても、一緒に佐賀を探求するような内容を入れてみるのも面白いと思った。

○委員

子育て・教育は中高生の視点が少ないと思った。その点では、部活動の民間委託などが話題になっている中で、今後の課題になるかと考えている。

また、農業の施策では、環境保全型農業にも触れていいのではと感じた。

○副会長

こども・教育・福祉分科会においても同様の意見があり、議論を行ったところ。議論の中で、各個別計画に反映するという事で整理を行った。

○事務局

農業について、生産体系の見直しは必要だと考えている。計画において環境保全型農業について具体的に記載はしていないが、一定の消費者・生産者ニーズは認められることから、生産体系の見直しの一つとして推進していく。

○委員

資料2のP49の防災・安全について、この時点で計画への反映は求めないが、災害に

において社会福祉協議会・行政・住民の三者連携や、災害ケースマネジメントといった観点を明確にしてもいいのではと感じた。

○委員

この時点で計画への修正を求めないが、子どもに分かるような記載・周知が必要だということ、そして、総合計画は子どもとの約束ごとであるといった主旨の意見が他の委員から分科会において出された。子どもとの約束ごとの責任を全うするのは「市民」である。「市民」は、この計画で最も多く出てくる言葉の一つでもある。その観点からも資料4の答申案にある記載文章について、市長などに強く求めたいと考える。

○副会長

資料2のP56のSDGsの目標5ジェンダーについては全て○を付けてもらいたい。SDGsの本文には、「あらゆる女性と女子の能力強化を図り、ジェンダー平等を実現することが重要」と書かれており、SDGsには169のターゲットがあるが、この項目以外にも多数ジェンダーに関する記載がなされており、関連がある。また、スポーツでは五輪で男性選手と女性選手が同数になるなど世界でジェンダーが進む中、市のあらゆる政策においてジェンダーの視点が既に取り入れられており、特定のところで関連しているものではないということを佐賀市においてもしっかり認識して欲しい。

○委員

資料2のP19の発想の転換などについて、人口が減ることが前提となっているが、人口増を考えないといけないのではと感じている。人口10万人以上のまちでも増えている自治体は存在している。また、日本の人口のうち、外国人が10%を占める政府推計があるなど諸説を踏まえ、減る前提でない考え方があってもいいのではないかと感じた。

○委員

先の委員の発言に賛同する。久留米や熊本は新幹線で社会動態人口が増えていると認識している。新幹線のフル規格を佐賀市に通せば、たとえば福岡大学の学生が佐賀市から通うことを選択肢にすることも考えられる。佐賀から県外の大学に通学できるように考えると新幹線は必須だと思う。人口減少を食い止める、増やすということを考えていただきたい。

○委員

ここまでまとめていただいた計画を見ると、実践という意味で非常に楽しみであるこ

とが多いなと感じる。

人口減少ともう一つ大きなインパクトを持つものとして、AI、オートメーションなどによって尊厳のある仕事、ディーセントワーク、働き甲斐ある仕事が減少していくという話がある。49%の仕事がなくなってしまうたり、他に置き換わってしまうという話もある。

その中で、計画では「変化に挑む」とか「創業」、「市民活動」という言葉を入れているところが大きいと感じた。市場経済や新自由主義では対象にならない領域にこれから投資していかないと、格差が広がっていくと考える。これまでになかったような仕事をこれから生み出していく必要がある。

○委員

資料2のP13に記載されているバックキャストिंगの思考はいいなと感じた。また同P19の発想の転換については、場合によっては支えられる側であった高齢者が支える側にまわるような、これまでの考え方にない記載がある中で、我々も一緒に実現していく一員として大事だと感じた。

○委員

市の担当部署の努力により素晴らしい計画案を作成いただいたと認識している。その上で、少子高齢化をどう踏まえるかが課題である。ゴールの視点でどういったビジョンが見えにくいので、もう一つの大きな柱を立てたらどうかと考える。佐賀市として残すものは整理すべきと考える。

○委員

資料2のP24将来像について、佐賀市の子どもが佐賀に生まれて良かったと誇りを持つことができるように、将来像を「佐賀らしさで『誇りを持って』みんなが上を向くまち」というように「誇り」の要素を入れていただきたい。

○委員

他の委員の発言でビジョンが見えないとあったが、今の時代はリモート教育できるので、そのことを活用して、教本みたいに体感してもらうような子ども向けの総合計画の冊子を作るなど、啓発をしてもらいたい。

○事務局

子ども向けの冊子については、検討したい。

○委員

子どもの貧困にあまり触れられていないと思った。行政としても、個別計画でもいいので議論して欲しいと考える。

○委員

佐賀市はこれから地域福祉計画などの個別計画を策定していくと思うが、総合計画の目標が各論にうまく結びついているかという検証は必要と思う。今回の総合計画については、各論にもしっかり活かして欲しいと考える。

○委員

資料2のP56においてSDGsの目標6に「安全な水とトイレを世界中に」があるが、小学校や中学校のトイレに和式があるなら洋式に変更できるような整理をしていただきたい。また、この目標6は健康、防災にも影響することから、この観点からも一覧表を見直していただきたい。

○委員

何ができないのかを明示するから助けられることがあると考える。行政ができないことを示さないと、市民からはあれもやってくれ、これもやってくれと要求が増えてしまう。行政ができないことを示すことは良いことではないか。できないことを示し合うことで手を取り合いたい。

○委員

分野別計画の11本目の柱として行政自体のシステムや体制があるべきではないかと考える。計画が完成して終わりではなく、それを実現していく行政の体制が必要である。

○事務局

本計画案はこの総合計画審議会から答申をいただいた後、議会に諮ったうえで、計画を固めることとしている。そして本計画に基づいて事業を設計していくが、予算やヒトの配置を通して体制づくりを行うので、政策のうち10本目の行政経営の中で進めていきたいと考える。

○委員

佐賀にとってのグローバル化やSDGsとは何かについて考えたほうがいいと思う。例えば、ニューヨークは移民との関係の中で、それぞれ小さなセクションごとに進めていたので、うまくやれていた部分がある。佐賀の地域の中でのグローバルは何なのかを議論したほうがいいと思う。小さいセクションで考えたほうがいい。

○会長

本日まで多くの意見をいただいたこと、感謝申し上げます。本日いただいた意見の対応については、あとは私と事務局において調整させていただく。ここからは進行を事務局に任せたい。

4 答申のとりまとめ

○司会

市長への答申は、8月20(火)に佐賀市役所にて行う。こちらの対応については、山下会長、田口副会長にお願いします。

5 閉会

○政策推進部長

大変熱心なご審議をいただき、本日、答申をとりまとめていただき御礼申し上げます。今回の計画は、2040年における人口構造の変化を見据えて、バックキャストिंगの手法を持って目指す姿や取組方針を検討していくことをコンセプトとしている。これまで以上に佐賀らしさに着目し、「佐賀らしさでみんなが上を向くまち(仮)」を将来像に掲げた。審議会でも佐賀らしさに多くの意見をいただき、一人一人の考える佐賀らしさがあると受け止めている。その佐賀らしさを大切に、市政を進めていきたい。本日も各部長が参加させていただいており、今回の理念を共有し、今後の政策にもつなげていく。

まちづくりは行政だけで進めることができないと認識しており、総合計画を多くの方と共有し、まちづくりの道しるべとして進め、市民とともにまちづくりを進めたいと考えている。そのためにも、一人でも多くの方に総合計画に知ってもらえるように、次世代を担う子どもたちにも分かりやすいように、周知や配布ができるように取り組んでいきたい。

最後になるがご多用の中、短期集中的なご議論をいただいたこと、御礼申し上げます。

以上